寺島の浜松地域遺産（認定文化財）

○寺島山王の秋葉山常夜燈

龍燈内にある秋葉山常夜燈で，「**秋葉山夜燈**」「**寺嶋村郷中**」「**明和五年戊子霜月吉祥日**」（１７６８）の銘がある。**（約２５０年前）**浜北区内で最も古い秋葉山常夜燈（明和５年）３基の内の一つで，２度移転し，現在地に建てられている。

龍燈内には，かつて使われた「**あきは山**」と記された灯明箱がある。昭和２０年代までは毎夕当番がろうそくに火をともしたという。

○寺島の道祖神（清水）

砂岩で風化が進んでいるが，舟形に彫られた中に２体の像が肩と腕を組むような姿が浮き彫りされている。**村の魔除けや行路の安全を守る**ため，**子孫繁栄を願う**ため建てられた。建立年月は不明だが、江戸時代の建立とみられる。

道標を兼ね，大伝寺の東，旧道の三叉路に祀られていた。左面に「**左平口不どう**」と刻まれる。右面は現在判読不能であるが,「右宮口」と刻まれていたという。現在は大伝寺門前に移されている。

○西隠寺椿薬師像

境内お堂の厨子内に安置されている。右手に薬壺を持つ。人々の病苦を救い，癒やす仏である。

内山真龍の遠江国風土記伝第五（１７９２）に「**西隠寺持ち，椿一株を霊木と為す，御體は石なり**」と記されている。脇像背面に「**東光山薬師佛　黙源建之**」の銘がある。**黙源は西隠寺九世，江戸時代元禄～正徳頃（１７００年前後）の住職**であり，**約３００年前頃の建立**と見られる。

天保時代の村絵図に，元の公会堂の地に「薬師」とあり，元はその地にあったと思われる。

○大伝寺の弘法大師像

浜北区南部から東区・南区・中区・西区に至る地域には、江戸時代に流行した四国八十八か所参りになぞらえた**新四国八十八か所参り**があり、**大伝寺は８８番札所**。文化１３年（１８１６）頃始まった。

台座に**「四國八十八番」「世話人　宇右衛門　弥平次」**と刻まれている。

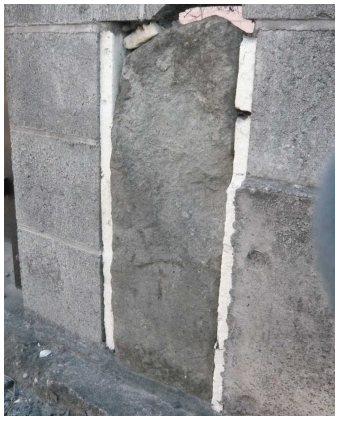
○寺島の半僧坊里程石

五里十五丁

奥山方広寺の鎮守「半僧坊大権現」は、明治１４年の方広寺大火で類焼を免れ、優れた霊験ありと信仰を集めた。明治１７年、引佐・麁玉郡長であった松島吉平(十湖)が音頭取りとなって、参詣者のために半僧坊への道のりを示す里程石が多く建てられた。

寺島を通る二つの半僧坊道(小松を通る道と西ケ崎を通る道)では、寺島に４基が残されている。

道標を兼ねるもの、地元の建立者名の刻まれているものがある。



（五里十）四丁

（五里十）二丁

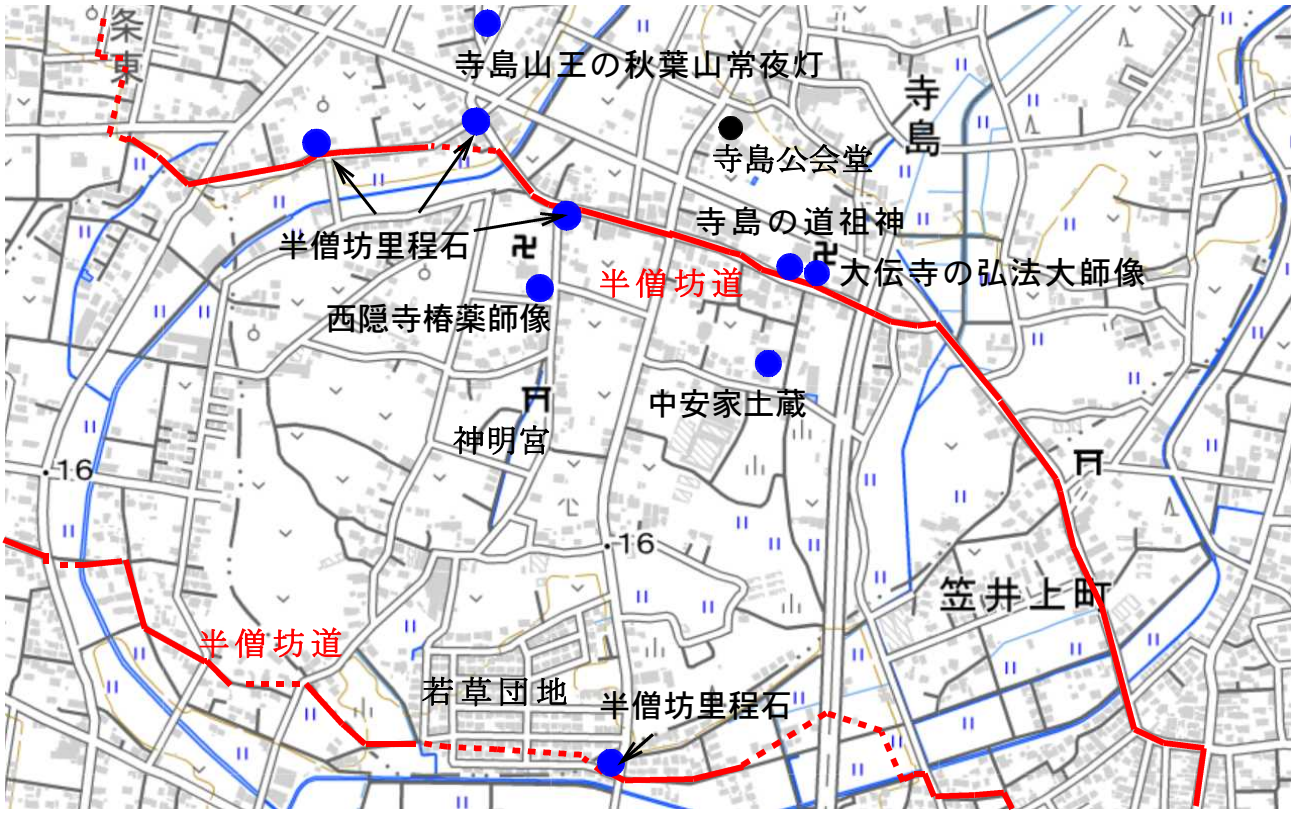
五里十（　　）丁

○中安家土蔵

大正時代から織物業を営む中安家の土蔵。桁間５間、梁間２間半の近隣にはない大型２階建て土蔵で、大正１０年１２月の建築である。漆喰壁に折れ釘が４段並ぶ。基壇は天龍石が使われている。唐破風の瓦葺きのひさしは昭和６年改築、七福神の瓦像が載る。棟梁は共に寺島の中安時十郎氏。

寺島の浜松地域遺産（認定文化財●）地図

令和５年６月現在



国土地理院電子地形図（タイル）を使用

＊問い合わせは、浜北区寺島　太田まで　Ｅメール　wbs15437@mail. wbs. ne. jp